



次代を担う若者への「海外体験」のススメ

各国との間で双方向の人的交流を拡大・深化させることは、日本人が質の高い観光資源やサービスを現地で体験するとともに、社会や文化、価値観などの違いについて理解を深めることを通じ、国内の観光産業の発展に必要な人材の育成にも大きく寄与するものである。したがって、我が国が真の観光先進国を目指すうえで、インバウンドのみならず、アウトバウンドを振興することは非常に重要である。

このため、観光庁では、2017年12月より、若者のアウトバウンド活性化に関する検討会を開催し、2018年7月に『若者のアウトバウンド活性化に関する最終とりまとめ～次代を担う若者への「海外体験」のススメ～』を公表した。

若者の海外体験のメリット

海外旅行には、観光・レジャーを楽しむ機会としての魅力があるが、現地での外国人とのコミュニケーションや異文化経験、社会的活動などの海外体験を得られる機会としての意義も大きく、上記最終とりまとめにおいてもこうした点が強調されている。

しかしながら、日本人の出国者数は、1997年に1,680万人であったものが、2018年には1,895万人となり、12.8%増加しているものの、20代の若者の出国者数は、人口減少などに伴い、1997年の451.9万人から2017年の304.5万人にまで、32.6%減少している。

また、観光学術学会で発表された調査によれば、若者の海外体験の未経験率は、2010年の41.7%から2016年の51.8%に約10ポイント増加しており、海外旅行に積極的な層では渡航頻度が増えている一方で、全く行かない層が増加していると分析することができる。両者の間には、きっかけがあれば行く層があり、観光庁としては、この中間層が海外体験をするきっかけを増やし積

観光庁 参事官(旅行振興) 奈良 和美

極的な層を増やしていくための取り組みを進めている。

若者のアウトバウンド推進実行会議

本年1月、観光庁では、関係府省・経済界・教育界が一体となって若者の海外体験を推進するための横断的組織「若者のアウトバウンド推進実行会議」を開催した。自治体による姉妹都市交流事業の一環として中高生などを海外に派遣する文化・教育交流事業についても、若者の海外体験のきっかけとして非常に有意義であると考えており、(一財)自治体国際化協会にも参加いただいている。今後とも関係者による連携を強化し、若者の海外体験の促進を図ってまいりたい。



若者のアウトバウンド活性化に関する検討会

プロフィール

奈良 和美 (なら かずみ)

2009年7月より奈良県に赴任し、国際観光課長、東アジア連携課長、知事公室次長などとして勤務。国際観光課長在任時には、主にアジアとの国際交流や国際協力を推進するほか、インバウンド拡大に取り組む。2019年4月より現職。若者のアウトバウンド推進を担当。